

## 100歳の誕生日を祝う

### 市田リンさん

市田リンさん（御厨・大崎上）が2月17日、入所先の介護老人保健施設よかここで100歳の誕生日を迎えました。

市田さんは、大正2年生まれ。若いころは行商を営んでおり、市内や佐世保市まで足を運んでいました。また趣味は旅行で、列車に乗って日本中を回ったそうです。

現在は、足が不自由なため移動には車いすが必要ですが、食欲旺盛で好き嫌いもなく毎日の食事も残さず食べています。

この日は、家族や施設の人から祝福を受け、友広市長からお祝いの言葉や花束などを受け取りました。



## 楽しい昼食会

### 一人暮らしのお年寄り・高齢者との昼食会、今福町民音楽祭

今福地区社会福祉協議会と今福公民館の共催による一人暮らしのお年寄り・高齢者との昼食会並びに今福町民音楽祭が2月20日、東部交流センターで開催されました。

この日は、今福地域婦人会が心を込めて作った温かいお弁当が振る舞われたほか、今福保育所や今福小学校の園児児童・地区住民が歌や踊りで昼食会を盛り上げました。

参加した約150人のお年寄りは、おしゃべりをしながら楽しいひとときを過ごしました。



## まちの話題

Matsuura City Topics

## 地域文化の推進のため

### 文化公演

松浦市文化協会主催による文化公演が2月17日、東部交流センターで開催されました。

松浦市文化協会を構成する支部として各地区で活動している松浦文化協会・福島文化協会・鷹島文化協会が一堂に会し、コーラスや三味線、和太鼓などを披露しました。

会場に訪れた人たちは、それぞれの発表を熱心に聞き入り、大きな拍手を送っていました。



## 食について考えよう！

### 食の文化祭 in 福島

“未来へつなげよう！地元食”をテーマに第1回食の文化祭 in 福島（食の文化祭 in 福島実行委員会、市食生活改善推進連絡協議会福島支部共催）が2月17日、福島保健センターで開催されました。

このイベントは食育を推進し、食による健康づくりや郷土料理の伝承などを通して地域の食文化への関心を高めようと実施されたものです。

会場内のテーブルには福島地域の家庭料理や郷土料理など約50品がレシピと一緒に並べられ、会場を訪れた人たちは一品一品を興味深く眺めながら出品者との会話を楽しんでいました。また、料理の試食や地元の小・中学生による食育活動の事例発表なども行われ、「食」について考える1日となりました。



## おはなし隊がやってきた！

### 本とあそぼう全国訪問おはなし隊

講談社が主催する「本とあそぼう全国訪問おはなし隊」が2月23日、約550冊の絵本を積んだキャラバンカーで市立図書館にやってきました。

この事業は、子どもたちが本を楽しむきっかけづくりと全国に読み聞かせの輪を広げることを目的に平成11年からスタートしました。全国を約2年間かけて訪問し、現在7週目を走行しています。

今回の訪問は、まつうら図書館きらきら塾の依頼によって実現したもの。会場に集まった子どもたちや親子連れなど約50人は、キャラバンカーの車内に展示された本を読んだり、おはなし隊や地元ボランティアの読み聞かせを聞いたたりしながら本との触れ合いを楽しみました。



## 環境にやさしいエネルギー！

### 松浦・福島太陽光発電所

未来エネルギー株式会社（山新田友明社長）が福島町で建設を進めていた太陽光発電所がこのたび完成し、その竣工式が2月26日、建設地の小島工場適地で行われました。

この施設は、約2.3<sup>ヘクタール</sup>の敷地に太陽光パネル4,704枚を設置し、発電量は約1,100<sup>キロワット</sup>で一般家庭の約400世帯分の消費電力を発電します。

この日は、関係者約60人が出席し、発電所の完成を祝うとともに運転の安全を祈願しました。

また、同町内では同社の第2発電所と九州液化瓦斯福島基地(株)による太陽光発電所建設事業も予定されています。



## 声で魅せるエンターテイナー

### ツートン青木スーパーライブ

ツートン青木さんのスーパーライブを2月22日、文化会館で開催しました。

ツートン青木さんは美空ひばりさんや沢田研二さんなど多くのものまねレパートリーを持ち、男女の声を使い分け抜群の歌唱力で魅せる正統派のものまねタレントとしてテレビなどでも活躍されています。

この日は開場前から多くの人が詰め掛け、観客はツートン青木さんの楽しいトークや素晴らしい歌声に盛大な拍手を送っていました。



## 景観づくりはまちづくり

### 松浦市景観シンポジウム

松浦の景観の今とこれからを考える『松浦市景観シンポジウム』を2月23日、きらきら21で開催しました。

シンポジウムでは、本市の景観基本計画策定委員会座長を務める福岡大学の柴田<sup>ひさし</sup>久准教授が『景観を活かしたまちづくりのすすめ』と題して講演。柴田氏は、「景観を生かすということは、自分たちの町や地域にしかないものを発見し、どうやって守り育てるかを考えること。このプロセスが地域のつながりを強め、ふるさとへの愛着を育みます」と述べました。

また、講演終了後には市職員からの景観基本計画の概要説明および景観工学の専門家と市民らによるパネルディスカッションが行われ、熱心に意見が交わされました。

